

杉下

小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学校教育目標・教育方針 ①	教職員	学校は、学校教育目標や教育方針を作成するに当たり、保護者や地域の実態・ニーズを踏まえて設定している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標や教育方針については、保護者や地域の実態やニーズを踏まえて設定していると教職員は87%で昨年度比-5%、保護者が85%で昨年度比-11%だったが、肯定的意見が教職員・保護者を比較しても85%以上と概ね高評価と捉えている。また、地域の評価では90%と前年度比+7%だった。学校運営協議会等で周知していることから、保護者をはじめ学校関係者が納得できるような設定をしていかなければならない。
	児童			<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校側だけの発信ではなく、前年度の保護者や地域の方々の意見を取り入れて、設定をしていく。
	保護者	学校は、保護者のニーズをとらえて学校教育目標や教育方針を設定している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境変化に対応し、時代に適合した、それでいて根幹は揺るがないような設定が必要かもしれない。(伝わりやすさも考慮に入れて) ・地域の声を聴く努力の成果が高い評価に反映されている。コロナ禍が続く中で地域と学校の情報交換等が少々形式的になってきている。地域代表の出席者が少なく、関心が薄れてきているように感じる。 ・過度に周りのニーズを汲み取る必要はない。 ・コロナ禍、各種情報を活用され、教育目標や方針を周知していると思う。 ・現在は私生活主義が過剰で地域的協働意識が低い時代。地域住民がどれだけ教育に対し興味を持っているか疑問。多様な地域の声を聞くためには、学校・保護者・地域リーダーが連携して発進力を強めていく必要があると思う。
	地域	学校は、地域の声を反映して学校教育目標や教育方針を設定している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	

杉下

小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学校教育目標・教育方針 ②	教職員	学校は、学校教育目標や教育方針を、保護者や地域住民に広く周知している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員の評価では前年度比-14%、保護者からの評価でも前年度比-6%と、いくつかの項目で前年度と比べて評価の下降が見られる。今年度はコロナウィルスの影響で地域や保護者の来校が困難であり、学校教育目標に触れる機会が少なくなったことが原因として考えられる。児童についても授業時間の減少が原因と考えられる。</p>
	児童	私は、学校教育目標を知っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>児童への方策としては、年度当初に作成する学年・学級目標とのかかわりについて、十分な説明を行う。保護者・地域については、広報誌やホームページなどで機会あるごとに紹介し、定着を図る。</p>
	保護者	学校の教育目標や教育方針について、プリントで読んだり説明を受けたりしたことがある。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童、家庭、学校、地域の相互理解、共有しやすい表現が必要かもしれない。 ・自治会の回覧で学校だよりや応援団だよりを読む機会があり、教育目標や方針等について理解できる。 ・現状で充分。 ・H/Pや杉小だよりなどの発信によることで、教育活動に共有化が高まっていると思う。 ・H/Pだけでなく、自治会への杉小だよりの回覧など目にする機会があることで、学校の様子を知り、見守りや協力ができると思う。
	地域	学校の教育目標や教育方針について、プリントで読んだり説明を受けたりしたことがある。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

杉下

小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察										
教育課程・学習指導 ③	教職員	教職員は、わかりやすく工夫した授業を行っている。	<table border="1"> <tr> <th>評価項目</th> <th>割合</th> </tr> <tr> <td>①</td> <td>44%</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>44%</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>13%</td> </tr> </table>	評価項目	割合	①	44%	②	44%	③	0%	④	13%	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員87%・児童96%と肯定的意見の評価が高い。学び合いの手法を取り入れた授業構成を実施していることから、児童に寄り添い、児童の実態を把握してある程度授業計画を作成できている。</p>
	評価項目	割合												
	①	44%												
②	44%													
③	0%													
④	13%													
児童	先生方は、わかりやすく工夫した授業をしている。	<table border="1"> <tr> <th>評価項目</th> <th>割合</th> </tr> <tr> <td>①</td> <td>62%</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>34%</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>3%</td> </tr> </table>	評価項目	割合	①	62%	②	34%	③	3%	<p>課題解決への方策</p> <p>さらにわかりやすい授業を実現するには一斉指導ではなかなか個々のつまづきに気付き、支援することが難しい場合もあるので、学び合いを活用し、児童相互の関係を強化していく授業をさらに取り入れていく。つまづいたことを質問できる関係の構築と質問に対し、説明する力をつけられるような指導をしていく。</p>			
評価項目	割合													
①	62%													
②	34%													
③	3%													
保護者				<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した学習の在り方について教職員、児童双方からの目線に立った理解を進めておくべきだと考える。 ・児童の評価がとても良い。先生方の指導の工夫の賜物と考える。個別最適な学びと協同的な学びの一層の推進を期待する。 										
地域														

杉下

小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
教育課程・学習指導 ④	教職員	児童は、授業中話をよく聞き、落ち着いた態度で学習している。	<p>5% 67% 13% 3% 13%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>児童の評価では肯定的な評価で91%と高い評価をしているが、教職員評価では72%、保護者評価では87%でも前に前年度比-8%という結果であった。しかし、地域の評価は肯定的意見が100%であることから、常日頃の学習活動において、話を聞いていない子もいると意識しながら授業を進めなければならない。</p>
	児童	私は、授業中話をよく聞き、落ち着いた態度で学習している。	<p>44% 48% 6% 2%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>黙ってすわっていると話を聞いているように見えるので、話を聞いていない子もいると意識しながら授業を進め、時々、顔色を見ながら「聞いていますか？」と話しかけてみる。 ・子供を引き付ける教材研究をしたり、話術を身に付けたりする。</p>
	保護者	児童は、授業中人の話をよく聞き、落ち着いた態度で学習している。	<p>20% 67% 6% 1% 6%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・子供との双方向でのやり取り、または子供同士のやり取りを基本に、ICT機器等の活用により、よりリアルな学習教材の活用方法を検討する。 ・評価委員が訪問している時は深く子供たちの様子を見取することは難しい。教職員の評価が日々子供たちを見ているのでまっとうな評価と考えるため、子供によく考えさせる授業（思考・判断・表現）を重視して一方的に聞くことは難しい子供たちとなっていることを意識すべきと考える。（YouTubeなどの影響が大きい） ・授業参観時の感想としては、学年やクラスに多少の差はあるものの、ほぼ落ち着いた学習に取り組んでいるので高い評価に表れている。 ・学習参観で見える限りでは授業に集中していると思う。タブレットの利用には協力し合い、学習を高めていると思う。 ・授業参観の様子では、どの学年も落ち着いた態度で集中しており、意見もしっかり言える児童が多い。</p>
	地域	児童は、授業中人の話をよく聞き、落ち着いた態度で学習している。	<p>40% 60% 0% 0%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

杉下

小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導・規律ある態度 ⑤	教職員	教職員は、児童の問題行動等に対して、組織的に、毅然とした態度で対応している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員評価では肯定的意見が92%と前年比+4%であったが、児童評価では、93%で前年度比-5%であった。保護者評価に関しては、肯定的評価が95%と高かった。組織的に毅然とした態度で対応していることが高評価につながっていると考えられる。また、特別支援的な児童による問題行動が多いので、より丁寧な指導や他の教職員への説明が必要だと思う。</p>
	児童	先生方は、いじめやトラブルなどの問題に対して、きちんと指導してくれる。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>今後も児童に寄り添った指導をしていきたい。また、児童の特性により指導しても分からないことがあるため特別支援的な目で見、事実を丁寧に説明する必要がある。</p>
	保護者	教職員は、児童が学校の決まりや集団生活・社会生活でのルールやマナーなどが守れるよう指導している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援的な児童が、将来的に社会生活になじめるよう考慮した対応が大切であると考えられる。(場当たりの対応が必要) ・高い評価は教師と児童との信頼度の表れ。いじめやトラブルの問題について、継続して早期発見に努めてほしい。
	地域			

杉下

小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察												
生徒指導・規律ある態度 ⑥	教職員	児童は、学校の決まりを守り、学校生活を送っている。	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>10%</td></tr> <tr><td>②</td><td>77%</td></tr> <tr><td>③</td><td>3%</td></tr> <tr><td>④</td><td>5%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>5%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	10%	②	77%	③	3%	④	5%	⑤	5%	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>児童は肯定的評価で94%、教職員評価でも87%（前年度比+3%）と特に児童の自己評価は高い。保護者評価に関しても前年度比-5%だが、肯定的意見が92%であった。学校内外問わず、「決まり」を守ることへの意識が高いと考える。</p>
	評価項目	割合														
	①	10%														
	②	77%														
③	3%															
④	5%															
⑤	5%															
児童	私は学校のきまりを守り、学校生活を送っている。	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>54%</td></tr> <tr><td>②</td><td>40%</td></tr> <tr><td>③</td><td>4%</td></tr> <tr><td>④</td><td>2%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	54%	②	40%	③	4%	④	2%	<p>課題解決への方策</p> <p>校内のきまりだけではなく、放課後の過ごし方についても繰り返し指導が必要。特に長期休業前などは気をつけたい。また、事前指導だけではなく、普段の生活態度の振り返りも短いスパンで行っていくことで学校内だけではなく、学校外でも意識させるようにしたい。杉下小学校のきまりの徹底を行っていく。</p>			
評価項目	割合															
①	54%															
②	40%															
③	4%															
④	2%															
保護者	児童は、学校のきまりを守り、学校生活を送っている。	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>23%</td></tr> <tr><td>②</td><td>69%</td></tr> <tr><td>③</td><td>5%</td></tr> <tr><td>④</td><td>2%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	23%	②	69%	③	5%	④	2%	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や情報化社会の進展によって子供は大きく影響される。きまりを守れるように家庭とのより一層緊密な連携が大切となる。 ・高い評価から、児童がきまりを守って学校生活を過ごしていることが理解できる。 ・マナーを守ることによって相手への思いやりなど、意識向上につながる。 			
評価項目	割合															
①	23%															
②	69%															
③	5%															
④	2%															
地域	児童は、学校のきまりを守り、学校生活を送っている。	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>60%</td></tr> <tr><td>②</td><td>40%</td></tr> <tr><td>③</td><td>0%</td></tr> <tr><td>④</td><td>0%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>0%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	60%	②	40%	③	0%	④	0%	⑤	0%		
評価項目	割合															
①	60%															
②	40%															
③	0%															
④	0%															
⑤	0%															

杉下

小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導・規律ある態度 ⑦	教職員	児童は校内ですすんであいさつをしている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>児童の肯定的評価では86%（前年度比+1%）と自己評価が高かった。しかし、教職員評価では肯定的意見が49%（前年度比-3%）、保護者評価では43%（前年度比-17%）、地域評価では40%（前年度比-21%）と児童の自己評価に比べ、教職員・保護者・地域の評価が下がっている。児童は校内では挨拶をしても、校外や地域ではなかなか挨拶ができていない。すすんで挨拶という面では児童自身が挨拶をしているつもりでも、相手に伝わっていない現状がみてとれる。保護者や地域の評価は厳しく、保護者や地域の方々に支えられて生活できているという意識が希薄で態度に出ないことが、保護者や地域の評価を下げているのではないかと。一方で管理職が朝の登校指導の際、地域住民から「杉下小の子供たちは挨拶ができるようになった」旨のお声をいただいている。</p>
	児童	私は、すすんであいさつをしている。		<p>課題解決への方策</p> <p>目指す児童像としては、知っている人に自分から進んで挨拶できる姿であるが、現実の指導としては大人から積極的に声をかけ、挨拶できる関係を構築していかなければ難しい。挨拶していないことを指導することも大切だが、まず挨拶を返してくれる児童を増やしていくこと。挨拶の気持ちよさを味わうことができる大人を増やしていくことが大切であるとする。また、なんのためにあいさつをするのか、価値の位置づけを行いたい。</p> <p>校内だけでなくとどまらず、家庭や地域においてもあいさつすることを繰り返し指導するとともに、あいさつの良さや大切さを児童に伝えていく。また、道徳や全教育活動においてあいさつや規律ある態度に触れ、学んだことを実践につなげられるように指導する。</p>
	保護者	児童は、家族や近所の人ですすんであいさつをしている。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成長期にある高学年の子供に挨拶を強制するのではなく、コミュニケーションの大切さを理解させる指導が大切であるとする。インターネット上での間接的なコミュニケーションよりも、顔を合わせる直接的なコミュニケーションとそれができる姿勢づくりは特に重要である。 ・挨拶はコミュニケーションの第一歩である。マスク生活やコロナ禍の影響もあり、人と目を合わせての挨拶をすることが難しくなってきた。その中で挨拶がどうして大切なのか、いじめやメンタルヘルスの面からも「挨拶」は人の心を豊かにしたり、他者への健康を気遣ったりする機会にもなることから、子供たちには挨拶の意義を考えさせながら、学校・家庭・地域が一体となって行うことが大切だと考える。授業規律とあいさつは相関していると結果を見て感じた。 ・校内でのあいさつはよくできているが、地域の人への挨拶はそれほど良好とはいえない。（マスク着用で声が聞こえないかもしれないが）地域の人から児童に声をかけることが肝心である。 ・自然体で良いと思う。 ・なかなか接する機会が少ないが、校内で接する限り、進んで挨拶する児童は半々であり、進んで挨拶する意義など長い目での対応が必要と思う。 ・校内ではよく挨拶してくれるが、外では知らない人の方が多いので、少なくなるのは仕方がないと思う。地域の大人も進んで声をかけるなどして共に成長していきたい。 ・地域の大人や保護者はお互いに挨拶が見られない。知らない人には挨拶しない。知らない人が多すぎる。地域の共同意識が低い「つながり」がない。子供は親や大人の背中をよく見ている。まず大人が手本を示すことで子供はよい挨拶をするようになる。子供の中には、素晴らしい挨拶をする子もいる。思わず顔を返すことがある。
	地域	児童は、地域の人ですすんであいさつをしている。		

杉下

小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
全 ⑧	教職員	学校は、登下校時の交通安全・不審者対策に関わる安全対策に取り組んでいる。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員・生徒・地域の結果がいずれも90%の肯定的評価をしていることに比べ、保護者評価では88%（前年度比-4%）と評価が低い。しかし、全体としては概ね安全対策について肯定的に評価している。メール配信や児童への安全指導で不審者情報を発信したり、危険箇所への立哨指導を行っている成果であると考えられる。</p>
	児童	安全に、安心して登下校できる。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>不審者情報だけでなく、立哨指導の情報等、危険箇所があっても安全に登下校ができていることをメール配信で知らせる。不審者対策の面でも、地域や保護者の方とのつながりを強くするためにも、地域の方や保護者の方たちに児童に対し、さらに積極的に挨拶等の声掛けをおこなっていただき、地域のつながりを強くしていく。</p>
	保護者	学校は、保護者・地域住民と協力して、登下校の交通安全・不審者対策に関わる安全対策に取り組んでいる。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事件事故予防の観点からも立哨は大切である。通学路に大人が立っているだけでも意味があると考える。PTAを中心として活動を継続して行ってほしい。 ・学校安全は交通安全だけではなく「生活安全・災害（防災）安全」と合わせて3つの安全で構成されている。けがや事故、食物アレルギーなどの生活安全、いざというときの心のケア体制などにも留意していただくとよいと思う。「危機管理」は裏を返せば「日常管理」である。 ・地域住民の登下校時の見守り活動は定着し、児童のコミュニケーションも充実している。高齢化に伴い若手メンバーの協力が必要である。 ・老人会としての協力は「交通安全対策」に関わるのは難しい。 ・スクールガードなど見守り活動により登下校の安全につながっていると思います。保護者との連携等必要と思います。 ・地域住民の立哨指導は必要と思うが、動ける人が限られてしまい（時間帯等）協力者を見つけるのも難しい。よい方法を考えなければならないと思う。
	地域	学校は、保護者・地域住民と協力して、登下校の交通安全・不審者対策に関わる安全対策に取り組んでいる。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

杉下

小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
保護者・地域との連携 ⑨	教職員	学校は、情報を積極的に発信し、地域に根ざした、開かれた学校づくりに努めている。	<p>64% 26% 0% 10%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員・地域・保護者ともに肯定的意見が概ね90%以上の評価をしている。コロナ禍で、以前のような「開かれた教育活動」が思うようにいかない中でこの評価は十分であると考えます。</p>
	児童			<p>課題解決への方策</p> <p>コロナが落ち着いたら、学校応援団を充実させるために、地域に働きかけ、誰がどんな協力をしていただけるか、一目で分かるリストを教職員に配布等するとよいと思う。授業にも積極的に保護者・地域の方を招いて地域とともに教育を推進していくことが必要であると考えます。地域に根ざした学校づくりの視点で、教育課程を各学年、見直していくことが重要である。</p>
	保護者	学校は、情報を積極的に発信し、地域に根ざした、開かれた学校づくりに努めている。	<p>26% 62% 6% 4%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による閉鎖状態から少しずつ開放に向かう過渡期のために、いろいろな施策を考えるための負担がありそう。その中においても、池田市で起きた事件のような事案があったことをしっかりと念頭に置いて教育活動を行っていくことが大切であると考えます。 ・情報発信がこの時代には大切であると感じている。HPが活用されていてよいと思う。 ・学校からの様々な情報発信は学校のことを知る上で効果的である。地域から子供向けの行事等を知らせている「杉下地域支え合い協議会だより」に関心を持ち、子供たちの参加を呼び掛けてほしい。杉下小の児童の参加に期待する。 ・ホームページの活用により情報発信の充実に努められていると思う。 ・コロナが改善されれば、もっと積極的に学校も地域も動けると思う。
	地域	学校は、情報を積極的に発信し、地域に根ざした、開かれた学校づくりに努めている。	<p>60% 30% 10% 0%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

杉下

小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
保護者・地域との連携 ⑩	教職員	学校は、保護者・地域住民などの地域人材を教育活動に活用している。	<p>41% 49% 0% 10%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員の肯定的評価では90%、保護者の肯定的評価では80%とともに前年度比-6%という評価であった。保護者や地域との連携について、保護者や学校応援団を通じて積極的に執り行っていくことについて、意識を高くしていくことが必要であると考え。あわせて、コロナ禍において保護者に教育活動への参画していただく機会に恵まれなかったことが課題として考えられる。</p>
	児童			<p>課題解決への方策</p> <p>手紙等の配布物による周知により、保護者と地域への認知度の向上を目指す。 また、感染症が多少でも落ち着いてくれば、学級担任からも懇談会や学級通信にて少人数ずつで保護者へ学習活動への積極的参画を促すことも効果的である。</p>
	保護者	学校は、保護者・地域住民などの地域人材を教育活動に活用している。	<p>20% 60% 11% 7%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA等が窓口となって保護者や地域とのコミュニケーションが進んでいくといいのではと考える。 ・コロナ禍でも少しずつ人材活用がなされてきたと感じる。WITHコロナなのでもう少し行ってもよいと思う。 ・地域住民との交流は子供にとっても大事な時間なので、学校教育の一環として今後も積極的に取り組んでほしい。 ・地域人材の具体的掘り起し方法を考えた方がよい。 ・地域のイベント参加を通じて、防災・福祉・自然学習など学べるかと思います。学校運営協議会委員として保護者からの参画増されてはと思います。
	地域	学校は、保護者・地域住民などの地域人材を教育活動に活用している。	<p>30% 50% 10% 10%</p>	

杉下

小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学校環境⑪	教職員	学校は、清掃活動や 掲示教育に力を入れる など、組織的に環境美 化に努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>評価結果 について の分析・ 課題</p> <p>児童評価では肯定的評価が97%（前年度比+1%）と高い評価で、清掃活動を頑張っているという意識であり大変よいと思う。また、地域からも肯定的評価が100%と高い評価を得た。同様に教職員や保護者ともに肯定的評価が概ね90%と高評価をしている。PTA・学校応援団の方々から協力を得て環境美化活動を行っていただいているのも高評価をいただいたおかげである。保護者が掲示物を見る機会は、自クラスと廊下の写真に関心を示すと思われる。写真がたくさんあり、児童の活動がよく分かることが保護者の意識にも残っているのではないだろうか。</p>
	児童	私は学校をきれいに しようと心がけ、清掃 をしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>課題解決 への方策</p> <p>故障中のものは早期に修理をして、長く放置しないことも大切だと考える。安全点検で修理箇所気づき、修理依頼ができるとうよい。</p>
	保護者	学校は、清掃活動や 掲示教育に力を入れ、 環境美化に努めてい る。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>学校関係 者評価委 員会によ る評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境美化については大変良い。タイル等は修繕が必要な個所が多いので、保護者や学校応援団を通じて活動を行っていくのも手段の一つかもしれない。 ・地域連携ができており素晴らしい。 ・高評価で学習環境が整っていることが理解できる。地域の方のボランティア活動は児童の良き手本となっていると思われる。 ・環境美化活動は地域の安寧に大切な活動である。 ・保護者の参画により、児童の意識が大変高まっていると思います。 ・きれいな環境で児童が生活できることは精神面にも良いと思う。明るい学校を維持するためにも地域も協力し、子供たちにも清掃の大切さを教えていければいいと思う。
	地域	学校は、清掃活動や 掲示教育に力を入れ、 環境美化に努めてい る。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	

杉下

小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
働き方改革⑫	教職員	⑫学校は、働き方改革を進め、教科指導や教育相談等、直接児童に係る時間が増えるよう努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比べ、肯定的評価については80%から82%と2%増加している。また、否定的評価でも16%から5%と減少していることから、教職員一人一人が自己の働き方について意識改革が生まれ、効率よく業務についていると考えられる。実際には超過勤務時間数においても月/45時間以上勤務している教職員は多少いるが、月/80時間以上勤務している教職員は0名である。
	児童		<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後もカエル会議等の場で、改革案等を出し合いながら働き方改革を推進していくとともに、教職員が心身ともに健康で元気に職務に就き、児童の指導に当たっていく。
	保護者		<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間の中で効率的の仕事ができるよう、ICT機器等の活用の土壌を作りつつ、保護者、地域との連携を大切にし、教職員でなくとも大丈夫な部分を、PTAや保護者、学校応援団等に積極的に手伝ってもらいことが大切であるとする。 ・教員にしかできない仕事や緊急度・重要度の高い仕事は何かを定期的に洗い出し、重点を絞るなどできているからこそ肯定的評価がプラスしたのだと思う。今後も期待したい。 ・教職員個々の努力では現状が限界。国や各教育委員会の強い指針が望まれる。
	地域		<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	